



## 4. ルーティング

### ルーティング(Routing)

#### ルーティングとは？

ルーティングに関しては、「[Webの基礎：MVC とルーティング](#)」を参照してください。

#### ルーティングファイル

**Laravel** のルーティングファイルは、**routes/** 内のPHPファイルで設定します。以下はデフォルトファイルです。

ファイル	説明
api.php	APIのアクセスを管理
channels.php	ブロードキャストチャンネルのアクセス管理
console.php	コンソールプログラムの管理
web.php	一般的なWebページのアクセス管理

#### ルーティングの確認

一般的なWeb管理ファイルは、**routes/web.php** です。今回は、**Inertia** で認証の設定を作成したので、以下のルーティングになっています。

```
Route::get('/', function () {
    return Inertia::render('Welcome', [
        'canLogin' => Route::has('login'),
        'canRegister' => Route::has('register'),
        'laravelVersion' => Application::VERSION,
```

```
'phpVersion' => PHP_VERSION,
]);
});

Route::middleware(['auth:sanctum', 'verified'])->get('/dashboard', function () {
    return Inertia::render('Dashboard');
})->name('dashboard');
```

## Laravelデフォルトの web.php

Inertia を利用しない Laravel デフォルトの web.php はルーティングになっています。

```
Route::get('/', function () {
    return view('welcome');
});
```

# ルーティングの基本

ルーティングの基本的な記述は、HTTPメソッドとURIを紐付け、クロージャ（無名関数）で処理します。

```
Route::HTTPメソッド(URI, function() {
    //処理
});
```

## HTTPメソッド

HTTPメソッドは、主にGETとPOSTを利用しますが、意図的に PUT や DELETE などを利用することもできます。

HTTPメソッド	ルーティング	
GET	Route::get()	通常リンク、読み込み、検索など
POST	Route::post()	データ作成・更新・削除など
PUT	Route::put()	データ更新
DELETE	Route::delete()	データ削除
PATCH	Route::patch()	部分更新

## HTTPメソッド

## ルーティング

OPTIONS

Route:: options()

その他

## Facade（ファサード）とは？

**Route** はファサードといい、**Laravel** で用意されたクラスファイルです。 **ファサード（Facade）** は、簡単にいうとクラスメソッドやメンバーを静的アクセスできるようにした仕組みです。**Laravel**でよく利用する機能はFacadeを利用してコーディングすることが多々あり、**Route** もその一つです。また、効率よく開発するために、オリジナル **Facade** を作成することもできますが、ここでは割愛します。

## ルーティング処理

<http://localhost:8000/about/> にGETアクセスして、HTMLを表示してみましょう。

URI

HTTPメソッド

テンプレート

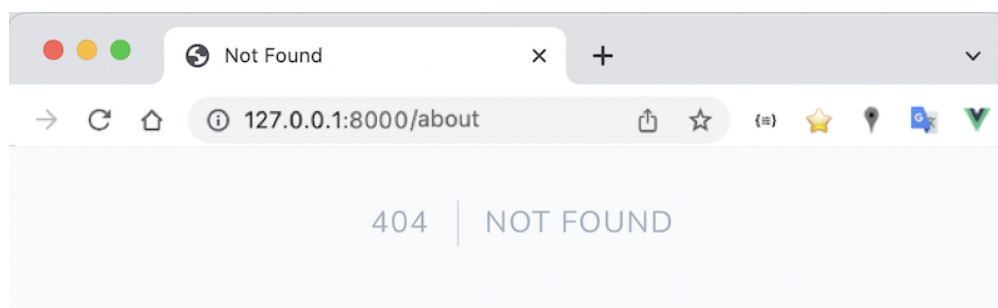
/about

GET

resouces/views/about.blade.php

## ルーティングがないとNot Found

まず、<http://localhost:8000/about/> にアクセスすると、ルーティングされていないので **Not Found** が表示されます。



## 処理を返す

今度は、`routes/web.php` に「/about」のルーティングを追加し、`return` で文字を返します。

```
Route::get('/about', function() {  
    return 'about';  
});
```

## 文字表示を確認

<http://localhost:8000/about/> にアクセスすると、文字が表示されます。

← → ↻ 🏠 ⓘ 127.0.0.1:8000/about 📄 ☆

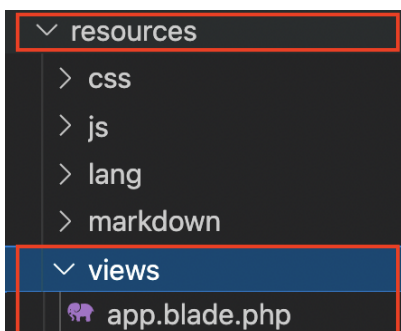
about

## Viewの表示

ルーティングができれば、`View` でHTMLを表示してみましょう。

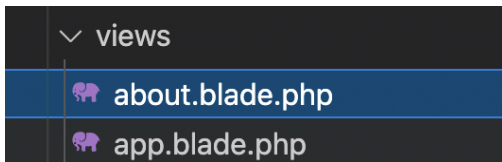
## Bladeテンプレートエンジン

`View` を表示するには、テンプレートファイルを用意しますが、Laravelでは拡張子が `.blade.php` のBlade（ブレード）ファイルです。テンプレートファイルは `resources/views/` の中で管理します。



## Viewファイルの作成

`resources/views/` に `about.blade.php` ファイルを作成します。



`about.blade.php` にHTMLを記述します。

```
<h2>About</h2>
<p>ショッピングサイトへようこそ!</p>
```

## Viewのレンダリング

テンプレートファイル（View）のレンダリングは、`view()` を利用します。テンプレートファイルのパスは、`.blade.php`を除いたパスとします。

`view`(テンプレートファイルのパス)

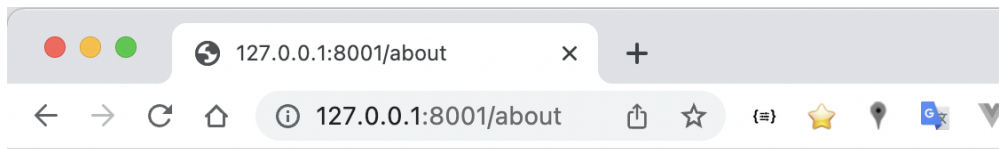
## Viewのレンダリング

`view()` で `resources/views/about.blade.php` ファイルを表示します。`view()` のパスは、`resources/views/` が起点となるので、`.blade.php`を除いた `about`になります。

```
Route::get('/about', function() {
    return view('about');
});
```

## 動作確認

<http://localhost:8000/about/> にアクセスして、HTMLが表示できるか確認してみましょう。



# About

ショッピングサイトへようこそ！

当サイトの教材をはじめとするコンテンツ（テキスト、画像等）の無断転載・無断使用を固く禁じます。これらのコンテンツについて権利者の許可なく複製、転用等する事は法律で禁止されています。尚、当ウェブサイトの内容をWeb、雑誌、書籍等へ転載、掲載する場合は「ロジコヤ」までご連絡ください。